

地域運用を想定したバーチャルモール・システムの開発と実証報告*

6T-01

林 康弘 景山 隆弘 中里 要 小松川 浩†

千歳科学技術大学 光科学部‡

1 はじめに

近年, ADSL (Asymmetric Digital Subscriber Line) や FTTH (Fiber to the Home) に代表される広帯域のインターネット網 (ブロードバンドネットワーク) の整備に伴い, バーチャルリアリティ (VR) や動画などを含むマルチメディアコンテンツ配信が可能となり, 対応するアプリケーションシステムの開発が, インフラ整備の整った首都圏を中心に急速に行われている. 特に, 電子商取引 (EC) は, 金融・流通業界が連携する中で, 今後も急成長が見込まれるサービス事業として期待が高い. 一方で, 地域社会における中小企業では, 情報ネットワークをビジネスに活用する体制の不足, 発信できる情報量の不足, 情報を発信するための技術の欠落などの理由から, 都市部の大企業に比べ, オンラインビジネス展開が困難な状況にある. 今後, 情報活用による経営格差 (デジタルデバイド) が, 地方へのブロードバンドネットワークの整備によって, さらに拡大する可能性が予想される. 上記一連のハードルを解決し, 顧客に対して安心感や満足感を与え, かつ特色ある地域発信型のサービス事業の育成が重要な課題と

言える. 今回は上記の背景に基づき, 地域の商工会議所と事業者が互いに協力し, 簡単な操作で情報発信を行い, 顧客が, 安心感と好奇心を持って多様な情報サービスを受けられることを目標とした, 実利用を意識した Web 利用型 3 次元バーチャルモールシステムの開発を行った. また地域社会 (北海道千歳市及び千歳商工会議所) と連携した実証実験についても報告する.

2 システム概要

開発した「Web 利用型 3 次元バーチャルモール」の特徴は以下の通りである. (1) ユーザ間の信用を確保することを目的に, 商工会議所をシステム管理者, 地域事業者を管理ユーザ, 利用者を一般ユーザ (市民を想定) と見立て, それぞれ Administrators, Operators, Users にグループ区分した. これにより, 各グループ内での評価情報などを共有・管理できるものとした. (2) 実運用を強く意識し, 簡単な操作で商品管理や受注管理を可能とする仕組みを実装した. (3) 物販以外の業種によるシステム利用を目的に, クーポン券の発行管理等を行える仕組みを合わせて実装した. (4) 顧客が安心感を持って商取引を行うことを目的に, 実際に商品を購入した一般ユーザからその商品を販売する管理ユーザ対し, 商品や取引自体の評価を登録できる機能を用意した. (5) 地域という限定された空間の場合, その利用目的が明確化することから,

*A Case report of virtual mall system assuming the regional network.

†Yasuhiro Hayashi, Takahiro Kageyama, Kaname Nakasato and Hiroshi Komatsugawa.

‡Faculty of Photonics Science, Chitose Institute of Science and Technology

